

文章の「型」・構成ノート

国語監修・執筆

古宮 才由里

■ 今回のポイント

- ① 三段構成とは？
- ② 接続表現を効果的に使う
- ③ 情報収集して、構成ノートを作る

■ 今回の言語活動

■ 三段構成とは？

「三段構成」は文章の書き方の一つです。一定の説明を必要とする四〇〇字以上の作文や小論文に適した書き方です。

三段構成は「序論」「本論」「結論」の三段落で構成されていて、それぞれ述べる内容は次のとおりです。

- ① 「序論」……問題（話題）を提起したうえで、結論を予告する。
- ② 「本論」……問題（話題）提起に対する根拠や反論などを挙げながら、具体的に説明する。
- ③ 「結論」……自分の立場や主張を明確にして、論を締め括る。

このとき、「序論」はできるだけ簡潔に示します。一方、「本論」はボリュームを置いてしっかりと述べるようにします。自分の主張をわかりやすく伝えるためには、「本論」で十分な説明をする必要があるからです。「結論」では、主張を的確に述べましょう。全体の割合として、「序論」を二割、「本論」を六割七割、「結論」を一割程度にまとめるとよいでしょう。

■ 接続表現を効果的に使う

「接続表現」を使うと文章の展開がわかりやすくなります。「接続表現」の役割に基づいて適切に用いるようにしましょう。次ページの表は基本です。これだけでも十分に小論文に対応できます。

結論	本論		序論
	反論	根拠	
したがって、 つまり、 〔本論〕をまとめて述べるとき	確かに、 しかし、 (予想される反論を述べるとき) (反証を述べるとき)	なぜなら、 例えば、 (原因・理由を述べるとき) (具体例を述べるとき)	では、 (問題を焦点化して述べるとき)

■情報収集して、構成ノートを作る

小論文では、文章を書いているうちに論点がずれてしまうことがあります。そこで、小論文を書く前に、三段構成に基づいて構成ノートを作りましょう。構成ノートは、小論文の構想メモです。短い文や箇条書きで作成します。次に、作成上のポイントを示しますので、番組の内容と併せて確認しましょう。

- ① 論題に対する自分の主張を明確にして、「序論」に示す。
- ② 「本論」の根拠や反論には、「客観的な情報」を示す。
 - インターネットや図書館を活用する。
 - 新しい情報を収集する。

【注意点】本の最後に記された「発行年月日」を参考にする。発行年月日の古いものは、それだけ情報が古い。
- ③ 「結論」と「序論」の主張がずれてはならない。一貫性が大切。
 - 収集した情報には優先順位を付け、主張を伝えるのに有効なものに絞る。
 - 【注意点】個人的で一部の人にしか当てはまらないような特殊な例は、共感を得たり納得させたりすることが難しいので避ける。根拠には、多くの人々にかかわる内容で、まだ一般的に知られていないことや大きな社会問題などがよい。(反論は第七回参照)

番組で紹介する「構成ノート」は、「序論」と「結論」で主張を繰り返す「双括式」です。主張が印象付けられるので一般的な小論文に適した形です。ただし、「結論」の主張に変化を付けて述べる工夫が必要です。番組中のひろとくんの構成ノートを参考にしてください。このほかに、結論(主張)を示してから説明する「頭括式」、反対に説明してから結論(主張)を述べる「尾括式」があります。書き方に慣れたら、自分に合ったものを選びましょう。

■今回のまとめ

自分の思いや考えを論理的に書かなければならないときに、三段構成や構成ノートは便利です。小論文や作文だけではなく、スピーチ原稿などにも活用できます。さまざまな場面で活用して、自分の可能性をひらいてほしいと思います。